

《出演者プロフィール》

大阪天水連 (おおさかてんすいれん)

1995年（平成7年）阿波おどり、どうせやるなら本格的にと、連結成時から本場徳島天水連に指導を仰ぎ、本場徳島に追い付け、追い越せを目標に一年中活動しております。
昨年11月徳島で行われた、全国阿波おどりコンクールで優勝することが出来き、大阪の阿波おどりのレベルの高さを全国に広めることができたと思っております。



市川聖山 (いちかわせいざん)

日本民謡俗曲芸道市川流家元兼会長



叔父に浪曲師故京山幸枝若

三味線を本條秀太郎に師事

東京芸術大学音楽部邦楽科卒業

芸団協関西常任理事

2008年吹田市文化功労賞受賞

NHK出演や録音等で活躍

三味線談義の創始者

五木ひろし新歌舞伎座こけら落とし1ヶ月公演や
中村美津子15周年記念リサイタルではトリで美津子の河内音頭を演奏。
今年2023.4.16日には丘みどりリサイタルLINE CUBE(渋谷公会堂)にて三味線を担当。

三味線談義とは
ストーリー性満載で唄、台詞、三味線を1人すべてこなす総合芸術の一人芝居。
平安時代の鬼談義や江戸時代廓の色物談義や近代から現代まで世の中を風刺したものまで様々な題材がある。

山田 恵範 (やまだ よしのり)

13歳よりギターを始め、大阪音楽大学卒。大学ではクラシックギターを専攻し、ピアノ、声楽、作曲法、音楽理論などを学ぶ。1990年より作曲、編曲家、そしてギタリストとして活動を開始する。現在まで演歌歌謡曲の作曲編曲を担当した楽曲は6,000曲に及ぶ。演歌歌謡曲の生バンドではバンドマスターとしてギターを担当し、数多くのステージをこなす。作・編曲家として活動する傍ら、ラテンギタリストとしても活動している。

ギターデュオ時代に2003年1stCD「君の影になりたい」を発売、2004年2ndCD「カサドール」(販売日本コロムビア(株))でメジャーリリース。

2009年10月には、南米チリ・コンセプション市にてソロコンサートを成功させる。

数々のテレビ、ラジオの音楽担当や、FMラジオ番組「山田恵範のミュージックライド」のDJも務める。

驚異的なテクニックと哀愁漂うギターの音色には定評があり、数々のアーティストのレコーディングにも参加している。

2006年・2007年にクラシックソロコンサートを行うなど、ラテンからクラシックまで幅広く活動を行っている。

(一社)日本音楽著作権協会正会員

(公社)日本作曲家協会会員

2015年2016年、公益社団法人・日本作曲家協会主催のソングコンテストでは2年連続で優秀作曲賞を受賞。

2019年に最優秀作曲賞グランプリを受賞。(「たんぽぽだけの花屋」歌・クミコ)

2021年に最優秀作曲賞グランプリを受賞。(「浪花恋おんな」歌・神野美伽)



米谷流尺八大師範 米谷 大輔 (よねや だいすけ)

大阪府出身

幼少の頃、母(梅若啄泰)の影響を受け民謡を始める。

小学5年～林佑喜雄師門下の山本佑昌師・佑佳師に尺八の手解きを受ける。

平成8年～上京し米谷威和男師・小杉真貴子師の内弟子となり

民謡・尺八の習得に励む。

平成12年～名取を許され、「米谷大輔」となる。

平成16年～8年の内弟子修業を終了し、地元大阪へ戻る。

平成26年～米谷流尺八大師範を許される。

(現在)

NHK民謡テレビ番組・ラジオ放送名曲アルバム・
演歌歌手ステージ出演・レコーディング・民謡発表会
教室、他活動中。



津軽三味線 飯田 華那 (いいだ はな)

小学4年生から和太鼓を始める。日本民謡藤本流大師範でもある祖母の影響で藤本流三味線を始める。

津軽三味線の音色の激しさに魅了され中学1年生の時に、津軽三味線へ転向する。

現在、津軽三味線世界大会A級3連覇山中信人師に師事。

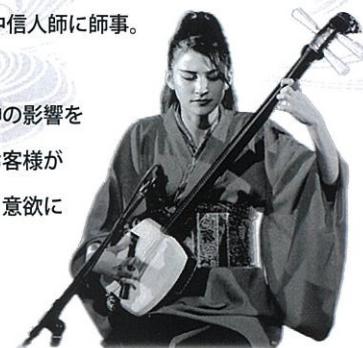
数々の全国大会にて優勝および上位入賞。

伝統文化の継承に尽力している祖母の精神の影響を

受け継ぎ伝統芸能の道を進化させ続け、お客様が

感動してくださるのが嬉しく今後の活動と意欲に

繋げている。



和太鼓 佐伯 篤宣 (さえき あつのぶ)



和太鼓との出会いは高校時代、友達との沖縄旅行の際にエイサーと出会い、地元(大阪)の太鼓チームに入る。

大学時代プロ和太鼓奏者、神奈川馬匠(かながわばしょう)氏に師事。神奈川氏のソロコンサートへの参加や、神奈川氏と共に香港マカオにて、日本とマカオの記念式典にて演奏。2011年3月にスウェーデンにて、地元の和太鼓チームへの指導を行う。東日本チャリティーコンサートを同地にて開催。

その後、4月より地元交野市にて小学校への指導、地元太鼓チームへの指導、またプロの演奏家とのイベント出演など、交野を拠点にソロとして活動を行う。

2021年「地元に100年続く郷土芸能を…」の思いのもと、チャンゴ奏者であり郷土芸能者のチェ・ジェヨル氏と“サエキ囃子”を立ち上げ、7月虫送り祭を開催。コロナ禍において、祭りの重要性を再構築する。

地元交野市を和太鼓の町に、、、和太鼓を通して人と人が繋がれる場を目指し現在、積極的に和太鼓の普及活動を行う。